



# 葛飾町工場物語 まちこうば 事業紹介

## 町工場のワンダーランド 「ものづくりのまち」葛飾

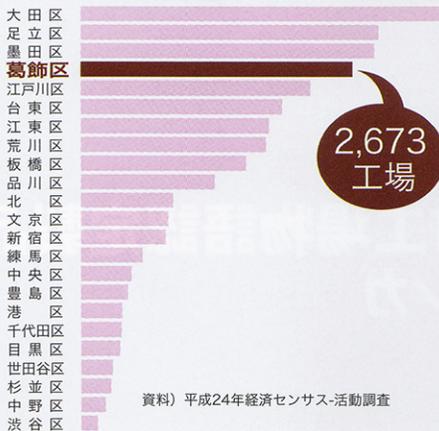
葛飾区といえば、「黄さん」や「両さん」、「キャプテン翼」が全国的にも有名ですが、現在は「葛飾の町工場」がその知名度を高めています。

平成24年経済センサス―活動調査によると、葛飾区は、都内23区で第4位の工場数(2,673工場)を誇る、日用消費財や生活雑貨などを中心とする町工業集積の代表格です。また、工場1事業所あたりの従業員数は5.5人と小規模の工場、いわゆる「町工場」で占められていることも大きな特徴です。かつては玩具のまちとして知られ、玩具に使用される多様な素材を加工する工業集積が、時代を経た現在でも区内工場の業種構成にも色濃く影響を落としています。そのため葛飾区は、金属やゴム、皮革、繊維、プラスチックなどさまざまな素材をいろいろに加工・製造する町工場が数多くある、「町工場のワンダーランド」のような場所なのです。

## 優れた製品・技術とその開発や 製造に関わる人の物語を紹介

この「葛飾町工場物語」では、区内工場から生み出される優れた製品等や技術のみならず、これらの製造や加工を担う人や開発・製造等につまづる物語につ

### 23区の工場数 (合計29,271工場)



### 葛飾区の業種別工場数



いてもご紹介いたします。ものや技術、人そしてこれらを生み出す「ものづくりのまち葛飾」の魅力をお伝えします。また、町工場に関わる方々には、ものづくりとしてのさらなる誇りを感じていただけたら幸いです。

## 葛飾町工場物語認定事業者には、さまざまな活動機会が提供されます

葛飾町工場物語の認定を受けた事業者には、「東京インターナショナルギフトショー」(2月)などの展示会への出展、「葛飾区産業フェア」(10月)や「かつしかミライテラス」(年2回程度)、「町工場見本市」(2月)など区の主催する展示即売会での展示・販売、「葛飾ブランド認定者交流会」での他の企業との交流など、ビジネスチャンスを広げるさまざまな機会が提供されます。



第33回葛飾区産業フェアの授与式の様子



第9回かつしかミライテラスの様子



東京インターナショナルギフトショーの様子



## 葛飾町工場物語

### 認定制度について

#### 葛飾ブランド「葛飾町工場物語」 認定の目的は？

葛飾区内で優れた技術等により製造された製品・部品などを葛飾ブランド「葛飾町工場物語」として認定します。その製造背景やエピソードをストーリー性豊かに区内外に情報発信していくことにより、葛飾区が高品質製造の集積地域であるイメージを高め、葛飾区における製造業製品の評価向上による製造販売の拡大に繋げ、葛飾区内産業の活性化に資することを目的とします。

#### 認定の対象は？

次の要件をすべて満たすものが認定の対象です。

- 葛飾区内で製造している製品、部品等「部品等」には製品や部品に各種処理などにより製品価値を高める加工も含む）であること。
- 認定時において、製造販売受注が可能な製品、部品等であること。
- 十分な安全性を有している製品部品等であること。

#### 認定申請の資格は？

- 区内で製造を行っている製造業者であること。
- 区内製造の事業者を含む団体（任意団体を含む）で活動の拠点が葛飾区内であること。
- その他、葛飾区長及び東京商工会議所葛飾支部会長が認めるもの。

#### 誰が認定するの？

認定品の申請を受けて、専門調査員が調査等を行い、その結果を踏まえて認定審査委員会が審査します。その結果に基づき葛飾ブランド「葛飾町工場物語」認定品として葛飾区長と東京商工会議所葛飾支部会長が認定し、認定証を交付します。

#### 認定されるとどうなるの？

認定製品（製品・部品）にはロコマークを使用する権利が付与されます。また、認定品を「葛飾町工場物語」ストーリー集やホームページ、広報誌に掲載して広く内外にPRしていきます。

また、東京ビッグサイトで開かれる国際見本市や、産業展等に出展して認定品の販路拡大や販売促進のビジネスチャンスを拡げていきます。

#### その他、葛飾ブランド認定の 情報については？

葛飾ブランド「葛飾町工場物語」のホームページおよびフェイスブックをご覧ください。

<http://www.tokyo-cci.or.jp/katsushika/machikoba/>  
<https://www.facebook.com/katsushikamachikoba/>

## 認定企業の声

（平成19年度・21年度・25年度認定事業者）（株）杉野ゴム化学工業所 杉野行雄社長



▲杉野行雄社長

弊社は第1回目の認定から第3回、第7回で認定を受けおかげさまで知名度、技術力、開発力が広くアピールすることができ、新たな取引につながり大きな恩恵を受けております。

第1回目の町工場物語冊子の編集は写真と会社案内、製品紹介の文章で見やすくありませんでした。そこで誰もが興味を持ち見やすくしようと協議し、開発ストーリーを漫画にしたら面白いのではとの案が出て、漫画家に書いてもらったところ解りやすい、インパクトがあることから漫画を軸に写真と補足解説文で構成したところ大好評で、全国から注目され何度も増刷され現在に至り好評であります。

町工場物語は見やすいことから大手企業から個人まで見てもらえ、弊社は色々な問い合わせやメディアからの取材を受けます。おかげで大手企業との取引や技術顧問契約を結んでおり、驚くことに中国企業が冊子を見て技術相談にきたことから顧問契約を結び、毎月香港、深圳へ指導に通っております。

このように自ら技術、姿勢をアピールできる葛飾ブランド認定は企業にとって大きな力になりました。

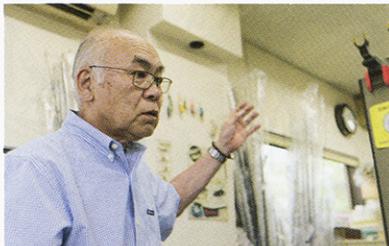


## 株式会社 リチャーズ

素材の開発から釣り竿の設計、素材巻き付け、塗装組み立てまで一貫して自社で行う、国内でも希少なメーカー。工程の多くは手作業で、熟練の技と経験が求められる。

## 釣竿製造技術

昭和52年創業の「リチャーズ」は、釣具メーカーやプロの釣り師の要望に応じて、設計の段階からカスタムメイドの製品を作ることが可能。ロッドの弾力性や強度、グリップ形状やガイド組付部の樹脂コーティングといった細かい要望にまで応えることができ、数々のOEM製品を手掛けている。自社オリジナルの「SUZUKI Blanks」は海外からの評価も高い。



代表の鈴木氏。穏やかな語り口であるが、釣竿製造への熱い思いが伝わってくる。

## 株式会社 リチャーズ

所在地：葛飾区西水元6-7-8

電話番号：03-3608-2100

代表：鈴木 隆

業種：釣竿製造

従業員数：21人

ホームページ：<http://www.turizao.com/>



パターンの違うカーボンファイバーを4〜8層に重ね、設計されたアクションカーブを作り出す。

## 進駐軍のお土産として作り始めた釣リ竿が歴史の中で磨かれ、世界に通用する商品に成長

釣り好きの方はご存知だろうか、「一口に「釣リ竿」と言ってもありとあらゆる種類が存在する。磯や防波堤でウキやサビキで釣るのであれば磯竿が定番だ。砂浜で仕掛けを遠投して、シロギスやカレイを釣るのには「投げ竿」が良い。軽くて扱いやすい「溪流竿」は、河川でヤマメやニジマスなどを狙いやすい。疑似餌をつけるルアーフィッシング用の「ルアーロッド」は、子どもや女性、釣り初心者にも使い勝手がよく、男女問わず人気が高まっている。

その釣リ竿作りにおいて国内外から高い評価を得ているのが、今年度葛飾ブランドに認定された株式会社リチャーズである。昭和52年の設立以来、素材の開発から釣リ竿の設計、素材巻き付け、塗装組み立てまで一貫して自社で行っている、国内でも数少ないメーカーだ。創業してから60年間に作られた釣リ竿は、優に100万本を超えるという。

40年ほど前にメーカーから専用モデルの製造依頼を受けたのをきっかけに、現在は約20社以上からOEMの製造依頼を受けている。複数の取引先のニーズに合わせて、モデルごとに異なる性能の竿を設計する技術力の高さは多くのメーカーから信頼されており、その卓越した釣リ竿製造技術が葛飾ブランドとして認定されることとなった。

リチャーズの前身は有限会社鈴木金属工業所という会社である。代表取締役である鈴木隆さんは先代が創業した時のことをこう話す。

「60数年前、父が戦争から復員した後、北千住駅の路地裏で釣リ竿の部品を乾かして干している人を見かけたそうです。当時は、進駐軍のお土産用に釣リ竿を作る人がいたんですね。父はそれを見て『自分にもできるのではないか』と考えて、釣リ竿の部品作りを仕事にするようになりましした。特別釣リが好きだったというわけではなく、とにかく何か仕事にしなければという一心だったようです。その仕事が軌道に乗ってリチャーズの前身である有限会社鈴木金属工業所を創業しました」

2代目の代表である鈴木隆さんは、大学時代は会社を継ぐことは考えていなかったという。アメリカの大学へ留学し、卒業後はフリーピンの飛行場の中のリムジンサービスの会社に就職することを予定していた。しかし、一時帰国した際に父の体調が悪化。

「父の具合が悪くなつて、お医者様に『家族みんな集まってくれ』と言われたことが2回ほどあったんです。父の顔を見たとき『あ、これは側にいないといけないのかな』と思いました。それで海外での就職を断念して、会社を手伝い始めたのです。営業で取引先を回っていると、お客様から『この竿、何尺?』と聞かれることがあって、戸惑いましたね。アメリカで生活していたのでインチやフィートはわかるんですけど、尺という単位はピンとこないんです。今でもちよつと苦手ですね」

仕事に慣れ、鈴木さんが会社を引き継いでからは「これからは世界にも通用するものを作らなければいけない」と考え、外国人にも親しみやすいよう、社

名を「リチャーズ」に改めた。時代のニーズに合わせて、釣リ竿部品の生産を縮小し、釣竿本体の開発に力を入れるようになった。

「どんな業界もそうだと思うのですが、釣リ業界も変化が速いんです。取引先もお客さんもどんどん変わっていく。中国製でも安くても質のいいのが出てきている。その中で何ができるか。世の中に合わせなければ生き残れません。お客様の要望を聞くことで新たな釣リ竿ができる。得意先が変われば釣リ竿も変わる。その繰り返しだと思います」

## 約20社を超えるメーカーからOEM製造を受注取引先のニーズに合わせてロッドをカスタムメイド

リチャーズの強みは、釣具メーカーやプロの釣リ師の要望に応じて、設計の段階からカスタムメイドの製品を作れることにある。ロッドの弾力性や強度はもちろん、グリップ形状やガイド組付部の樹脂コーティングといった細かい要望にまで応える。「もつとしなやかな感じで……」というような抽象的かつ感覚的に伝えられるリクエストも具体的な数値に落とし込み、図面を起こす。その難しさについて鈴木さんはこう話す。



ガイド取り付けに使われる糸は数十種類の色でデザインされ、すべて手作業で巻き付けられる。

「狙う魚や環境により求められるロッドはまったく違います。例えばクロダイは、東京湾や神奈川の八景島の堤防、木更津などいろんなところで釣れますが、場所によって使用す

る竿が異なるのです。その場所の特徴や、存在する餌の種類に合わせてロッドを調整していかなければならないのです。」

リピート客であれば、前回のデータを元に数値を変えられることができるが、新規客の場合は0からの手探り状態で図面を起こす。独自のプログラムを駆使し、データ上でアクションのシミュレーションを繰り返し、設計図ができたなら工場で作成する。顧客からGOサインが出たら、いよいよ生産開始だ。その流れを工程順に紹介する。

### 【材料の保管】

リチャーズでロッドに使っている素材は、主に「グラスクロスプリブレグ」と「カーボンプリブレグ」だが、ここでは後者を使った製造工程を取り上げる。カーボンプリブレグとは、カーボンファイバーに熱硬化樹脂を含ませたシート状の素材のこと。熱に弱いため、30℃以下の冷蔵庫で保管されている。リチャーズで扱うものだけで60種類以上あり、それぞれ固さや弾力性が異なる。作りたいロッドのアクションカーブに応じて、カーボンを多層組み合わせることで、自由自在にロッドの性能をコントロールするのだ。

### 【材料の裁断】

プリブレグを設計図に応じて裁断する。裁断機を使うと同じ型を一度に何枚も切れるが、型が大きい場合は、職人がカッターで手切りしている。低温だと切りにくいいため、部屋の中は適度な温度をキープしているという。ここで裁断された材料を「パターン」と呼ぶ。

### 【巻き付け】

先ほど裁断したパターンを芯金に巻き付けていく。1本のブランク（リールなど部品が何もついていない竿のこと）に対して、多いものは7〜8枚のパターンを使うこともある。あらかじめレジンを塗った芯金にパターンを仮止めしたあと、ローリングマシンで均等に圧力をかけながら巻き付けていく。特殊な形状のものには機械を使わず、職人が手で巻き付けていくため、デリケートな作業を要求される。

### 【テーピング】

表面にラッピングテープを巻き付けていく。このテープの圧力で、余分な樹脂が締め出されて材料の内の気泡が抜け、真円のパイプが出来上がる。ロッドごとにテープの種類や巻く間隔、圧力などが異なるため、細かいセッティングが求められる。

### 【オーブンで焼成】

テーピングした材料をオーブンの中に吊り下げて130〜140度で3〜4時間ほど加熱。カーボンプリブレグに含まれる樹脂が熱で硬化し、硬いパイプになる。冷ましてから油圧式の機械で芯金を一気に抜き取る。



チェック後のガイド部は、独自設計した機械を用いて、1箇所ずつ手作業で接着塗装される。

### 【テープ剥がしと研磨】

テープを剥がした後、ブランクの両端をカットすることで所定寸法に仕上げる。2ピース以上のロッドは、センターレス



取り付けられたガイドが一列に並んでいるかを熟練の目で1つ1つチェックする。

### 【塗装】

マシンで接続部を0.01ミリ単位で研磨。塗装する場合は塗料の密着性を高めるために、表面をスコッチやサンドペーパー等でサンディングする。

ロッドの表面にシコキ塗装や、スプレーガンによる吹付塗装を施す。シコキ塗装は棒状のものを均一に塗るのに適した塗装法で、釣り竿やゴルフクラブによく用いられる。塗料の入った容器に一本一本ブランクを差し込んで引き抜くことで色をつけていくが、ブランクを手前に引くスピードと、容器の角度を操作するタイミングにより厚みが異なるため、熟練の経験とセンスが求められる。乾かした後、ブランドロゴや品名をシルクスクリーン印刷で一本ずつ刷り込んでいく。2色印刷など複雑なデザインは神経を要する作業となる。

### 【ガイド仮止め、糸巻き】

検品後、ガイドの糸巻きと飾り巻きの工程に移る。ブランクスを回転する機械にセットして、図面に従ってガイドをテープで仮止めした後、手作業で糸を巻きつける。回転のスピードは足もとのペダルでコントロール。複数のポビンにセットされた糸が丹念に巻かれていくことで、美しい模様が浮かび上がる。

### 【ガイドのコーティング】

ガイドを取付けたロッドを機械にセットすると、回転しながら移動していくので、アルコールランプで



グリップ部が組み上がったロッド。この先も数回に渡る厳しい品質チェックを受け完成品となり、出荷される。

な樹脂の中に塗り固められる。

毛羽立ちを焼いて取り除く。その後、ガイド糸や飾り巻きの糸にエポキシ樹脂を染み込ませる。下塗り、中塗り、仕上げ塗りというように3回以上コーティングすることで、糸が艶やかな

### 【組み立て】

トップガイドの接着や、グリップのリールシートなど各種のパーツをロッド本体とドッキングさせる。ガイドのコーティングと工程が入れ替わることもある。

### 【完成品の検査】

塗装のムラがないか、ごみやほこりがついていないかチェック。部品の動きに問題がないかも確認し、不具合があればすぐに調整加工をする。担当者には、信念ですべての釣り竿をチェックします。市場に出るからお客様に指摘されるのは恥ずかしいことですから」とロッドを手に持ち、隅々まで舐めるように見つめていた。検査が済んだものは、シールやエンド銘板などを貼り付けて、保証書や取扱説明書を入れ、梱包して出荷する。

このように長い工程を得てロッドが完成する。リチャーズの従業員は全員で21人。全員が何らかの形で釣り竿作りに携わっている。一本の釣り竿ができるまでにたくさん職人の手がかけられているのだ。リチャーズが細部までこだわった本物志向の美しさは、国内

外から高い評価を得ている。

## 「SUZUKI Blanks」を世界へ！ 世界を基準にしたブランクス製造による新たな挑戦

OEM製品だけではなく、自社オリジナル商品の「SUZUKI Blanks」の売り上げも好調である。日本ではあまり馴染みがないが、海外ではリールなどのパーツがついていないブランクスを買い求め、自分好みの部品をつけてカスタマイズする文化がある。そういう趣味を持つ人向けに、世界で用いられる基準をもとに開発したのが「SUZUKI Blanks」だ。

約40アイテム以上のラインナップのうち、最もスタンダードなのは「RXF」というシリーズ。グリップ部分の太さの変わらないノンテーパーグリップを採用し、釣り竿の先のほうがしなるファストアクションを取り入れている。

東南アジアではRed Snapper、GI-Giant Tervalis、その他Rock Fish等をターゲットにしているという。公式サイトやパンフレットは英語表記のものを作り、他社と提携して海外からの問い合わせに対応する窓口を作ることで、着実にユーザーを増やしている。ユーザーからは直接メールで感想や完成画像が送られてくることも多くなり、SUZUKI Blanksの事業展開に手ごたえを感じているようだ。鈴木さんは「今回の葛飾ブランド認定を受けて、区内でもSUZUKI BlanksでDIYを楽しむ人が増えたら」と今後の展開に期待を寄せている。

## 一番大切なことは社員が幸せに働けること心を一つにして最高の釣り竿を作り続ける

リチャーズの躍進を支えるのは熟練の知識と経験を持った職人たちだ。短い人でも7年、長い人は50年も現場で活躍しているという。彼らのことを思い、鈴木さんはこのような社訓を掲げている。

- ・社員が幸せになるため、会社の繁栄を目指す。
- ・つねに自己から考えてチャレンジ精神をもつ。
- ・初心を忘れるものづくりの新たな価値、創作に努める。
- ・みんなで作るお客様の感動のお手伝い。

社訓を作ったときのことを伺うと、鈴木さんは穏やかにほほ笑んだ。

「これを書いたのは、社員に幸せに働いてほしいという気持ちからですよ。うちには子育て中のパートさんもありますが、学校から連絡があれば、タイムアウトして子どもを迎えに行けるようにしています。昔は、カゴみたいなものにパートさんの赤ちゃんを寝かせて、みんなであやしながら働いていた時期もありました。お互い助け合いながら働いているので、職人が風邪でダウンしたときには、別の職人が応援に駆けつけてくれることもあります」

地元の人が無理なく長く働ける環境を整えることが、結果として大勢の職人を守り育てることにつながっているようだ。アットホームな雰囲気の中で働く社員の顔は、みな職人の誇りと充実感に満ちていた。常に時代の潮目を読み、変化していく柔軟さを保ちながら、「社員を幸せにし、お客様を喜ばせたい」という大切な部分は決して揺るがないリチャーズ。その在り方は、彼らが作る釣り竿同様に美しかった。

# 「葛飾町工場物語」の ロゴマークとコンセプト

KATSUSHIKA



町工場物語®



町工場物語

かこしか



町工場物語

- ブランドカラーは、藤脂(えんじ)色とし、熟練した職人の技と情熱を共通のコンセプトとしています。
- ロゴマークでは、六角レンチとネジという工具によって、人の形を表しています。  
ありふれた工具でも、職人が使うことで初めて身体の一部といえる道具になります。そうした町工場ならではの職人の技術技能の高さを表現しています。
- また、バンザイした人の姿は、「未来を照らす技」こそが職人の明るい未来を開くという応援のメッセージを含んでいます。
- 文字においては、葛飾だけの「町工場物語」というストーリーを、より個性的に表現しています。町工場ならではのネジという要素を組み込み、オリジナリティを創出しています。

未来を **照**らす技

未来を **照**らす技

かこしか 町工場物語

KATSUSHIKA 町工場物語

- 町工場の実在感(信頼できる・高度な技術技能がある)を、明朝体によって落ち着いた表現を基調として表しています。
- その上で、「未来を照らす」というキャッチコピーの内容を、よりポジティブに明るく伝える表現としています。
- ものづくり産業を応援する意味で、それぞれの町工場にスポットライトを当てていくという姿勢を表しています。

# 公式ホームページ・フェイスブックの紹介

「葛飾町工場物語」の公式ホームページとフェイスブックでは、葛飾ブランドの最新の情報を発信しています。ぜひご覧ください。



公式ホームページ

<http://www.tokyo-cci.or.jp/katsushika/machikoba/>



フェイスブック

<https://www.facebook.com/katsushikamachikoba/>

